

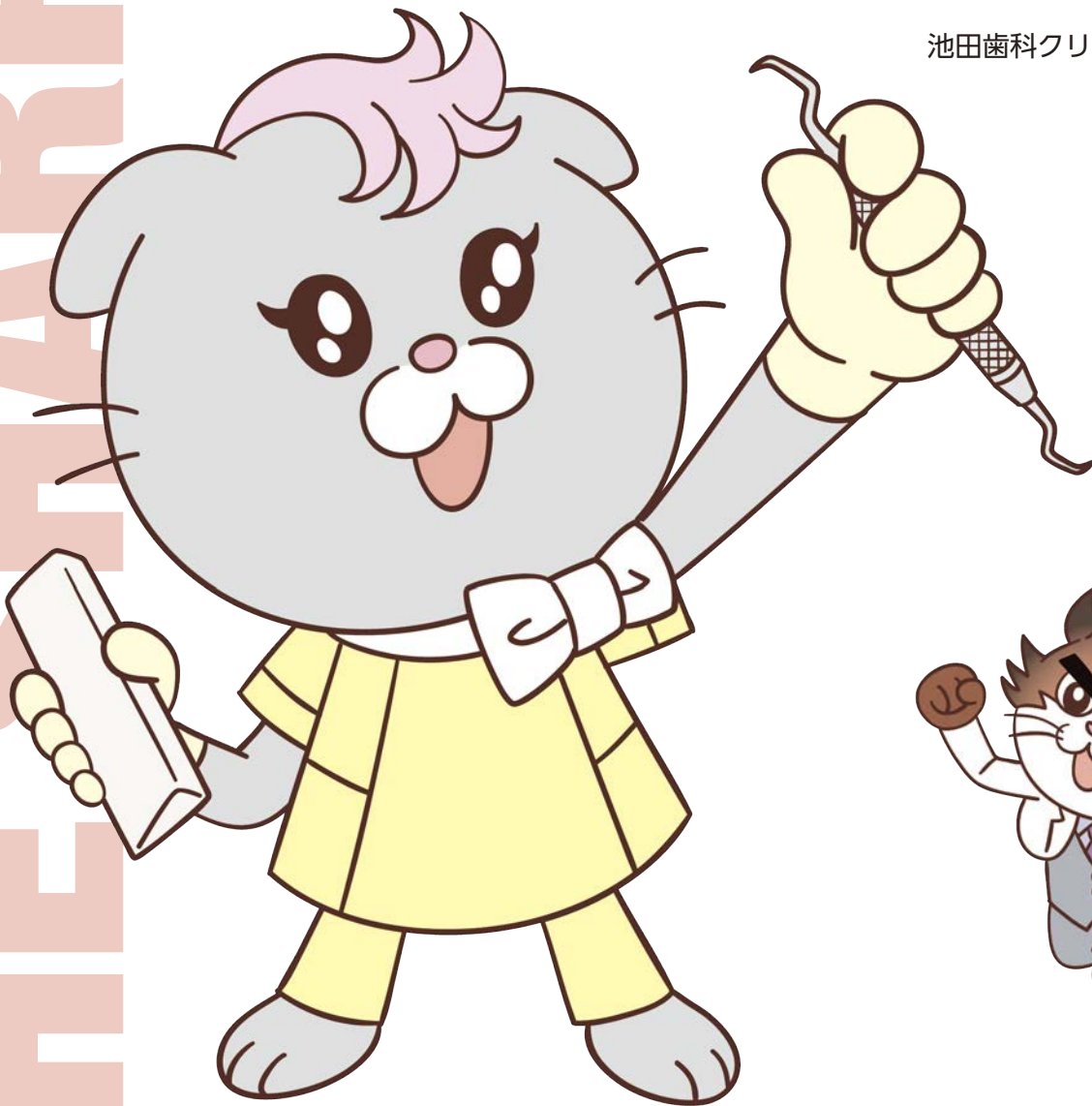
ステップアップ
歯科衛生士



7Stepで
挑戦!

ザ・シヤープニング

池田歯科クリニック・歯科衛生士
佐藤昌美 著



第1部

シャープニングについて



ハイジニャン

シャープニングを勉強するうえで、一番大切なのがこれから始める7つのStepよ。簡単に思えても、必ず順番にStepを積み上げましょうね

ニャーカンサス

早く練習したいのに…



ハイジニャン

7つのStepを確認しないでシャープニングをしてはいけません。約束してニャーカンサス

ニャーカンサス

わかっているStepは飛ばしちゃダメ？



ハイジニャン

1つのStepを踏まえないで次に移ってはダメ。それぞれのStepがわかっているなら、もっと理解を深めてから次に進みましょう。それは決して遠回りじゃないのよ

ニャーカンサス

本当？ハイジニャン？



ハイジニャン

7つのStepをクリアするごとに、シャープニングができる自分に近づくの。信じてニャーカンサス

ニャーカンサス

はい



1 刃部の上面（フェイス）を床に対して平行にする（図 46～48）

1 頸部が直¹⁸⁾のグレーシーキュレット #5 の第 1 シャンクの位置 （左手に把持した場合）

- ① #5 の把柄部を床に対して垂直（90°）にして、掌握法で持ちます。
頸部の第 1 シャンクは床に対して垂直（90°）になります（分度器上で 90° の位置）。
- ② 把柄部を左方向に傾けて、刃部の上面（フェイス）を床に対して平行にします。
第 1 シャンクは左に 20° 傾き、分度器上で 70° の位置になります。

2 頸部が複屈曲¹⁸⁾のグレーシーキュレット #13 の第 1 シャンクの位置 （左手に把持した場合）

- ① #13 把柄部を床に対して垂直（90°）にして、掌握法で持ちます。
- ② 第 1 シャンクを床に対して垂直（90°）にします（分度器上で 90° の位置）。
- ③ 把柄部を左方向に傾けて、刃部の上面（フェイス）を床に対して平行にします。
第 1 シャンクは左に 20° 傾き、分度器上で 70° の位置になります。

2 内角と外角

刃部の上面（フェイス）と側面のなす角度を内角、上面（フェイス）と砥石の間の角度を外角とよびます²⁸⁾。砥石を刃部に当てた時に、外角が 100°～110°であれば内角は自動的に 70°～80°になります³⁰⁾。

70°の切縁を作る場合は、床に対して平行にした刃部の上面（フェイス）に対する砥石の角度（外角）を 110°にします〔刃部の上面（フェイス）に対する砥石の角度を 100°にすると、切縁は 80°になります〕（図 49）。



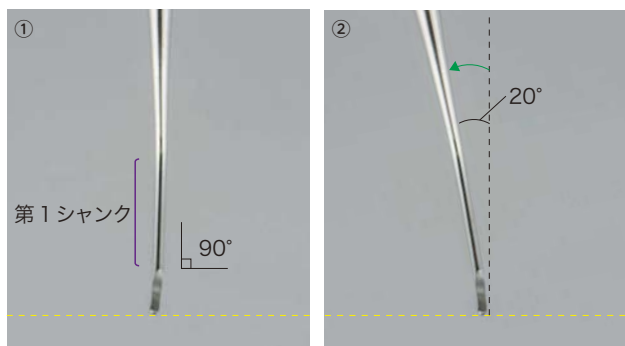


図 46 # 5：頸部が直のグレーシーキュレット

- ①第1 シャンクは床に対して垂直 (90°)
 ②第1 シャンクを左方向に 20° 傾ける. 上面 (フェイス) は床に対して平行.

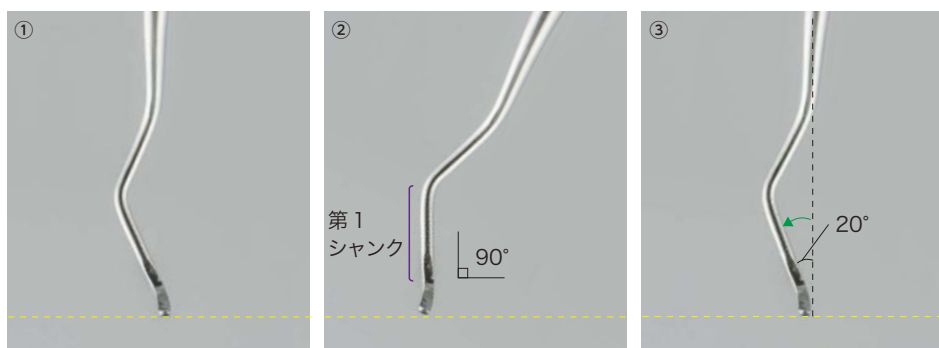


図 47 # 13：頸部が複屈曲のグレーシーキュレット

- ①把柄部を床に対して垂直 (90°) に持つ.
 ②第1 シャンクを床に対して垂直 (90°) にする.
 ③第1 シャンクを左方向に 20° 傾ける. 上面 (フェイス) は床に対して平行.

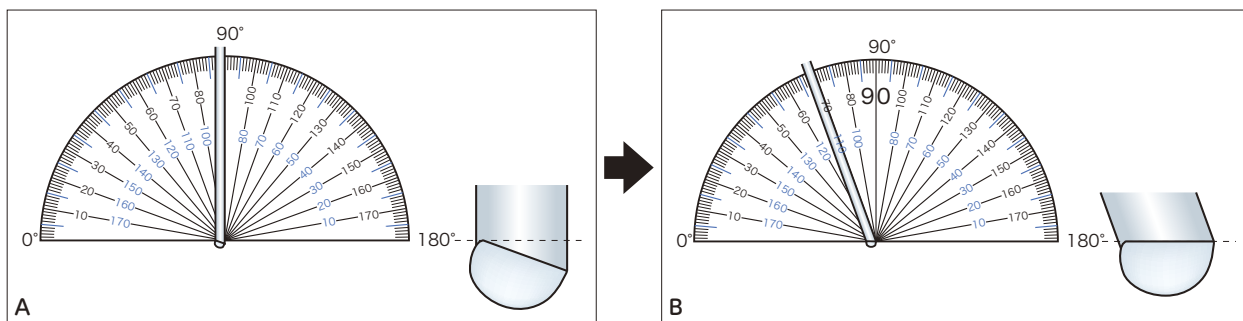


図 48 分度器を使った第1 シャンクの位置の確認

- A：第1 シャンクの位置が 90° .
 B：第1 シャンクの位置が 70° .

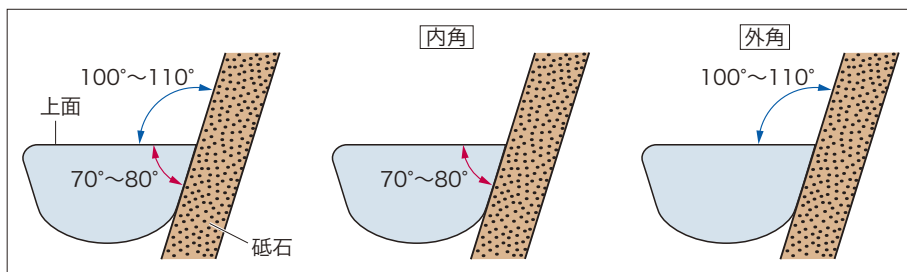


図 49 内角と外角

- 内角：上面 (フェイス) と側面のなす角度.
 外角：上面 (フェイス) と砥石の間の角度.

第3部

臨床から学ぼう～症例編～



ニャーカンサス

切れるグレーシーキュレットでSRPをして、患者さんの口腔内は変わる？

ハイジニャン

それは“さとちゃん”に聞いてみましょう



ニャーカンサス

さとちゃんって誰？

ハイジニャン

根分岐部病変に“挑戦”する歯科衛生士さんよ



さとちゃん

ニャーカンサスちゃん、シャープニングは上手くなった？

ニャーカンサス

もちろん、“できる”わ！



さとちゃん

すごい！私は7年間できなかったの

ニャーカンサス

シャープニングができるようになって、何か変わった？



さとちゃん

そうね、患者さんの歯周病がよくなって、いろいろな経験をして、たくさんのことを学んだかな

ニャーカンサス

本当？！



さとちゃん

じゃあ、一緒に患者さんの経過を見て、症例から学びましょう

ニャーカンサス

はい



下顎右側 5 番の歯肉の変化

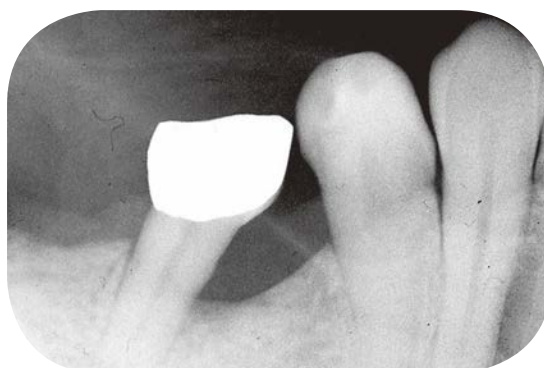
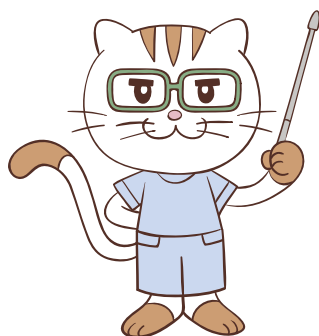


初診時の口腔内写真 (2003 年)
付着歯肉の幅が狭く、歯肉腫脹が認められた。

下顎右側 5 番の歯槽骨の変化



エックス線写真 (2003 年)
近心に垂直性骨吸収が認められ、縁下歯石が沈着していた。



初診から 6 カ月後のエックス線写真 (2004 年)
SRP 後、骨透過像の変化が認められた。



SPT 時の口腔内写真 (2010 年)
矯正治療と補綴治療後、SPT を継続して治療効果を維持した。



エックス線写真 (2010 年)
歯槽骨の改善が認められた。